

2021年6月1日

事務部門における「実質再エネ電力」導入について

日本甜菜製糖株式会社

当社ではSDGs 取り組みの一環として、地球温暖化防止の観点からCO₂削減に取り組んでいくとの方針を掲げ、検討を進めているところであります。

この度、事務部門をターゲットとしたCO₂排出量削減を目的として、帯広市稲田所在の事業所（総合研究所、飼料事業部、ビート資料館）と芽室町所在のビジネスセンターにおいて、北海道電力が提供する「カーボンFプラン」の電力契約を締結致しました。これにより2021年6月1日より（ビート資料館は6月11日より）実質再エネ 100%電力での営業となります。

道内外の皆様にご利用頂いております「ビート資料館」は、環境に配慮した「優しい電気」で、ご来館の皆様をお迎えしたいと考えております。

この「カーボンFプラン」は、CO₂排出ゼロの付加価値を条件として北海道電力が提供しているものであり、非化石証書(再エネ指定)を活用し「実質再エネ」、「実質CO₂排出量ゼロ」の電力を使用することになります。これにより2事業所あわせて年間約600tonのCO₂排出量が削減されることとなります。

当社は、SDGs の取り組みの一つとして、僅かでもCO₂排出量削減へ向けて行動して行きたいとの思いで第一歩を踏み出しました。これからもSDGs の推進を目指し、地域社会に貢献し、より皆様のお役に立てる企業として努力して参ります。

以上